

1. 評価結果概要表

作成日 平成 19 年 10 月 4 日

【評価実施概要】

事業所番号	2170103234		
法人名	医療法人 社団 護洋会		
事業所名	グループホーム高橋クリニック第2		
所在地	岐阜市栄新町3丁目30番地 (電話) 058-296-1088		
評価機関名	NPO法人ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル2階		
訪問調査日	平成19年9月19日	評価確定日	平成19年11月6日

【情報提供票より】 (平成 19 年 9 月 3 日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 8 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 10 人, 非常勤 6 人, 常勤換算	12.7 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り		
	2 階建ての	1 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	15,000~ 円	
敷 金	有(契約金100,000円)		無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (入所預り金100,000円)	有りの場合 償却の有無	有(入居経費滞納ない場合は全額無利子で返却)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,333 円	

(4) 利用者の概要 (平成 19 年 9 月 3 日 現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	3 名	要介護2	7 名		
要介護3	5 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 83.4 歳	最低	74 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	高橋クリニック、平野総合病院、岐阜中央病院
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、交通の便が良い市街地に立地していて、外来者(家族等)にとっても訪れやすい。母体は、医療法人で周辺にクリニック、デイサービス、もう一つのグループホームを併設し各施設間の交流も盛んである。このホームの特徴は、医療機関との連携が緊密にあること、夜間には看護職が入り、毎日医師である代表が朝夕2回巡回し、見守りをしている。又、安全に対する配慮は代表者の信念に基づき徹底した管理が行われている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	利用者やその家族から信頼のある医療面でのサポートは、夜間に看護職が入ることで更に充実した。安全に対する配慮は代表者の信念の基、徹底されており、玄関の施錠や外出支援の方針の変更はない。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、この1年間のホームの歩みを内より見詰め直す機会と捉え、職員間で話し合いその結果を文書化し、改善の計画に活かすように取り組んでいる。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議に多くの関係者に出席してもらっていることで、ホームに多くの視点からの意見や要望が出されている。ホームは、これらのことを積極的に受けとめ、職員ミーティングで改善に向け話し合っている。又、課題によって行政の協力が必要なものは、ホームから相談をもちかける等連携を強め、成果に結びつけている。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	意見や要望の受け口として、意見箱を備え付けている。相談事は、面会時や電話での問い合わせがあり、その都度丁寧に対応している。面会の少ない家族には、電話やホーム便り等で連絡し、意見を言ってもらえる機会を作り、運営に反映できるように工夫している。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	運営推進会議により、老人会等地域の役員にホームの役割や日常の様子が伝わるようになってきている。今後は、自治会長や民生委員にも参加してもらい、よりホームを理解してもらえる取り組みになって行くといい。災害時には近隣の協力や支援が必要になるので、日常からの交流が深まるような連携への取り組みが期待される。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	代表者は、開設以前より現在も、地域住民との信頼関係作りに継続的に努力しており、ホームが地域の中で受け入れられて行くように、理念も「地域に密着した医療と介護を行う」としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、信頼関係を築くことが何よりも大切との考えにより、「職員は、自身正直であること」をモットーに、日々実践に向け全職員が取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	母体法人のクリニックやデイサービスに地域の方が利用し、顔馴染みの関係があり、日常でも地域で気軽に会話ができる関係ができています。法人が開催する夏祭りや年末の餅つき大会に、地域の方に参加を呼びかけ、交流の拡大に取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果を、ミーティングで報告すると共に、評価の意義を再確認する機会と捉え、課題について話し合い、文書化し改善に向けての取り組みを決めている。	○	ケアの目的の理解や決めてあるケア手順の遵守等、一つひとつを確実に行うことの確認により、信頼関係が更に積み上げられて行く取り組みに期待される。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、家族、老人会長、包括職員、市職員の参加で2ヶ月に1回ホームで開催し、広く意見をもらい、又、ホームからの報告も行う。現場では、推進会議の内容を活かすことで、ケアの向上につなげている。実現可能な案件を優先して取り組んでいる。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とコミュニケーションを十分に図ることで、情報の供与や相談がしやすく、サービスの向上につなげている。	○	今後は、市と共に家族介護教室・相談会等の開催にむけ取り組んでいくという計画の実現が期待される。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時に、日常をありのままに、直接話している。随時の電話連絡も欠かさない。又、月1回、ホーム全体の情報提供をホーム便りで行っている。	○	面会時や電話でのやり取りを記録に残し、後から支援の内容が分かるようにする取り組みがあると更に良い。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族や関係者からの意見を広く受け入れており、その内容は、経営者や管理者を通じ職員に伝えられ改善に向け取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者のダメージを極力少なくするため、早い段階から引継ぎの職員と一緒にあって対応することで、生活に支障が生じないように努めている。利用者にとっても職員の異動により馴染みが途切れても、隣接するデイサービスやホーム周辺での出会いの機会は多くあり、ダメージにはつながっていない。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人に来る外部からの研修案内は、できるだけスキルアップや職員希望を考慮し、職員の参加を応援する環境や雰囲気がある。又、資格取得を応援している。	○	一つ一つのケアについて、確認したり、話し合ったりし、信頼される技術が育っていく取り組みに期待される。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岐阜県グループホーム協議会に加入しており、他の研修会でも同業者との出会いはあり、情報交換する交流はある。行政や地域包括との交流を足がかりに、更に同業者とのネットワーク作りに結び付ける取り組みを始めた。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	病院からの入居もあるが、利用者の半数程はデイサービスの利用からの入居である。昼はデイサービスを利用し、夜は宿泊してもらったり、デイサービスの雰囲気に馴染めない方はホームのレクリエーションに参加し、馴染んでもらえるように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者には、人生の豊かな経験者として尊敬の念をもって接するように指導しており、常に教えてもらったたり、手助けしたり、互いに支えあう関係となっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>					
14	33	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日常の中で、できる限り利用者のそばにいて会話や会話の中にでてくる言葉から思いを汲み取るようにしている。意思表示が困難な方はその方の行動や表情をよく見ているようにし、職員間で把握に努めている。</p>		
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>					
15	36	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人の状況や希望と現実の課題等を家族と話し合い、どのようにかなえて行くかを検討し、原案を作成、家族に説明同意を得ていく支援をしている。</p>		
16	37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>本人の日常をよく見守りながら、状況の変化を十分に把握し、適切なケアや支援が行えるよう職員間で話し合っている。立てた介護計画での支援では困難になった場合には、主治医や家族とも連絡、相談し、新たな計画を作成し、支援を行っている。</p>		
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>					
17	39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>ホームは、医療法人が母体であることから、利用者の思いや状況の変化に対応し、理学療法士、歯科衛生士、薬剤師等の専門職の支援を定期的にしたたり、工夫して組み合わせることで、活かしたサービスにして支援している。</p>		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者のほとんどが母体クリニック院長を主治医としているが、入院の設備はないので入院の必要な場合や他科の疾患については紹介や連携を取り支援している。外来対応については職員が付き添い受診するが、事前に家族に連絡し、結果の報告を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居契約時に、クリニック院長から本人や家族に意向確認とホームでの対応のできる限界を説明する。ホーム内でできるターミナルの対応は実際に行っており、院長から説明し、家族の意向の再確認、職員間で方針を共有し、支援にあたっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ケアの時は、本人の羞恥心に配慮したケアであるように注意を払っている。個人記録については、利用者家族に開示の許可をもらう使用方法を守っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の個別対応は、内容により職員の配置から難しい場合があるが、1人でいたい、少人数でいたい、デイサービスへ参加したい、ホームでレクリエーションを楽しみたい等、個別の希望は把握して、できるだけ添えるように支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	法人の管理栄養士が立てたバランスの良い献立を、指定の惣菜店で調理し、弁当箱で届けられる体制をとっている。食後の後片付けを利用者と職員が共にしている。一方、レクリエーションの一環とし、月に1回程度、皆でおやつ作りを楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、週2回、昼からを基本とし、入浴順位は職員が調節する。1対1で30～40分くらいかけて入浴を支援する。1日6～7名が入浴できる。家庭風呂での入浴が困難になった方は、デイサービスの風呂を利用し、ホームの職員が入浴を支援している。	○	入浴介助が長靴を履いて行われているが、一度検討されたい。又、入浴しない日には、就寝前などに下着を取り替える等の支援が求められる。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	張り合いのある生活を送ってもらうため、本人の得意とすることや、関心を持ったことを楽しみながら行えるよう支援している。できた作品は本人の部屋や廊下などに掲示し、利用者の楽しみとなっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの方針は、利用者の安全を最優先にし、外出による怪我の皆無を図っている。家族同伴による外出は行われている。	○	職員のケア技術力の向上を図り信頼を得ることや、運営推進会議に参加した家族や地域の役員に、理解と協力を得る等、外出支援への新しい視点が期待される。
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の安全を確保することを最優先する代表者の信念から、玄関の施錠を終日行っている。	○	鍵をかけないケアに向けての研究が望まれる。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は、年間1回は実施されている。消防署の協力のもと、消火器の使い方、緊急連絡方法の確認を行っている。	○	災害時には、近隣住民の協力が欠かせない。更には、運営推進会議に、地域の役員、自治会、民生委員等にも参加してもらい、協力を得られるように話し合っていく取り組みも望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	副食は、栄養士による献立が立てられ、総菜屋に調理を委託している。ホームでは、主食や汁物を作っている。さらに職員が利用者の食べやすい形態に加工している。食事や水分の摂取量は、その日のリーダーが把握し、記録している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は清潔に掃除されており、採光もよい。天気の良い日は、午前中、自然換気するため窓を少し開けている。季節の花が飾られたり、季節を表現した作品が飾られている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が落ち着いた気持ちになれる場所になるように、家族と協力しながら、馴染みの調度品や道具、家族の写真が持ち込まれ、その人らしい、好みの部屋づくりの工夫が見られる。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。